

「国会質問、身近に思えた」「共産党議席ふやさねば」

清水衆院議員が民商と懇談

苦境打開へ連携

不安・期待 次つぎに

衆院財務金融委員を務め、コロナ禍による中小事業者の苦境打開のため、通常国会で大奮闘してきた清水ただし衆院議員は、国会論戦の到達点を報告し、実態・要望を聞くため国会閉会後、近畿の民商事務所を訪ね会員との懇談を連日行っています。7月1日以降、大阪、兵庫、奈良の20以上の府県連、単位民商を訪ねました（懇談には地元の地方議員、国会と近畿ブロック事務所の秘書らが同行）。

●質問で一気に流れが変わった

清水さんは、所得税と消費税の確定申告時期の延長や延滞税なしの納税猶予など数々の要望を実現していますが、民商会員に特に喜ばれているのが「持続化給付金」（売り上げが激減した中小企業に上限200万円、個人事業主に同100万円を給付）の申請をめぐる質問（5月19日、財金委）。中小企業庁は答弁で、確定申告書に売り上げの記載がない場合、代替えとして収支内訳書や決算書も認める姿勢を示しました。この質問で、流れが一気に変わり、受け付けられなかった申請が受理されるようになりました。

懇談でも感謝の言葉が沢山出されました。神戸北民商では、懇談に参加した会員（輸入業）から「野党の質問は揚げ足取りのように思っていたが清水さんの質疑を見て、身近なものに思えた」「質問時間は議席数と関係があるんですね。共産党の議席を増やさねば、と思いました」との声が出されました。この中で、いくつかの民商では会員の中で「しんぶん赤旗」の読者が増えています。

●「コロナに負けてられるか」

懇談では商売を守り抜く気概が語られ、「わしら大阪の商売人はコロナかコロケか知らんけど、負けてられへん。粘る！踏ん張る！頑張る！の精神で乗り切らなあかんと思てる」など、参加者同士が励ましあう場面もありました。

●「手放して喜べぬ」「一度限りでは」「家賃払えない」

しかし実情は極めて厳しく、要望や不安が次つぎ出されました。

- ・葛湯の製造・卸をしている奈良民商会長の濱中達也さん。消費税増税による打撃に加え新型コロナで「踏んだり蹴ったり」。持続化給付金を受け取ることができたものの「手放しでは喜べない」
- ・「給付金を一度もらうだけでは間尺にあわない。夏以降をどう乗り切るのか、繰り返しの支援を」
- ・「ホテルと病院が得意先だが、注文が途絶えている。持続化給付金と雇用調整助成金で持ちこたえているが、このまま仕事が戻らないと深刻な事態に」（大阪・守口市）

清水さんは、「さらなる対策実現へ、皆さんと連携してやっていきたい」と話しました。



写真上は灘民商（清水さんの右隣りは味口俊之神戸市議）、下は浪速民商で

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 39(2020.7.11)